



海老沼小だより

～ かしこく やさしく たくましく生き抜く子
笑顔と歌声あふれる学校 ～

1月号

平成31年1月8日

さいたま市立海老沼小学校

新年に際し、子ども達のために、子ども達とともに願うこと

校長 森 裕子

新年を迎え、皆様、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年も変わらぬ、ご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

さて、日本の文化として年明けは、多くの人が「初詣」に参り、神様に「願いごと」をします。願いごとは目標でもあり、神様に叶えていただくというよりは、それぞれ自分の中でしっかりと決意し、「これからがんばります」と誓っていると言えます。私も毎年、元旦に地元の神社に行って手を合わせ、願い事をします。まずは、『自分』『家族』『海老沼小のみんな』が、今年も無事に笑顔で過ごせますように」と。それから、自分が達成したいと考えていることを二つ、三つ。ところが昨今、気づくと新年の決意はどこへやら、毎年努力できずに終わっています。3学期が始まると、子ども達はそれぞれ願いごとを記し、掲げます。それは、微笑ましくて健気なものばかりです。そして、願いを叶えるため、日々一生懸命努力していきます。そんな子ども達の力強い姿に触発されるたびに、「私も今年こそ！」と願いなおすのですが。ともあれ、640名の子ども達が、今年はどうな願いごとをしているのか楽しみです。



手作りのお飾りで、新年のご挨拶を申し上げます。

学校にとって年明けは、3学期の始まりで一年間のまとめをする時期にあたります。一年間の集大成を果たしながら思いを馳せるのは、4月からの新たな出発のことです。子ども達はそれぞれ、「今年は、〇年生になる」という思いと共に「進級に向けて～をがんばろう」とか「～(こういふ)自分になれるよう努力したい」と目標や願いを描きます。また私達教員も、年度の終盤を迎える年明けに、子ども達のさらなる成長を願い、精一杯の力を尽くしていこうと改めて決意しています。とりわけ6年生は、「卒業」までのカウントダウンの日々が始まったという感じで、担任はもちろん、すべての教職員と在校生が「6年生にとって海老沼小最後の3学期、一緒にいい思い出をたくさん作って過ごしたい。」と願っています。今年は「中学生」となり、大きく環境が変わる6年生は、どんな新年の夢を抱いているのでしょうか。

年が明けて「おめでとう」と言うのは、「新しい年を重ねることを喜び合う」からだと言われているのをテレビで観ました。願い(決意)も新たにスタートした子ども達が、3学期を一層実りの多い時期として過ごし、4月になれば新しい1年生が入ってきて、今日みんなが一つ上の学年に進んでいくことは、とても晴れがましくうれしくて、おめでたいことだと実感しています。

今、海老沼小のみんなで、強く願っていることがあります。今日、始業式で話しました。一年前、大変な治療を終えて学校に復帰した3年生の清水君が再び入院することになりました。一か月前の講話朝会では、一緒に「しろさんのレモネードやさん」という本を読みました。この本は、かつて清水君と同じ病院に入院していた横浜の小学生「しろ君」のアイデアで発刊されたものです。しろ君とその家族の皆様は、この本を通じて「小児がんのことを多くの人に知ってもらいたい」と願い、レモネードを売った売り上げを小児がんの治療の研究に役立てるというアメリカ発祥の取組を題材として絵本にしました。レモンの黄色を基調とした絵がとてもきれいで、かわいいレモンのキャラクターも登場する素敵な絵本です。清水君のお母様が、海老沼小の皆さんにも読んでほしいと3冊も寄付してくださいました。清水君には、主人公の「しろさん」の台詞を朗読してもらいました。また、病気のことやレモネードスタンドについて教えてくださいました。その後、この本は校内で大人気となり、今でも予約待ちの状況です。アメリカには困難に立ち向かう人を励ますのに、「もし人生が君に酸っぱいレモンを与えるなら、甘いレモネードにしよう」という言い回しがあるそうです。酸っぱいレモンを甘いレモネードに変えるため、毎日つらい治療をがんばっている清水君に、私達は励ますことしかできませんが、一日も早く病気が治って、また海老沼小で一緒に過ごすことができるようにと心から願っています。

たくさんの願いを込めて2019年が始まりました。今年も、皆様、どうぞ海老沼小の子ども達と本校の教育活動にお力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。